

平成28年度第1回(政治学・国際関係学)グループ合同委員会議事概要
サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会
政治学・国際関係学グループ

- I. 日 時 : 平成28年7月11日(月) 10:00~12:00
II. 場 所 : 私立大学情報教育協会事務局
III. 出席者 : CCC 政治学グループ運営委員会 平野委員、名取委員、川島委員
CCC 国際関係学グループ運営委員会 林委員、毛利委員
事務局 井端事務局長、森下、中村

IV. 議事概要

1. 報告・検討の概要

(1) 平成27年度の事業報告

事業報告書により、昨年度開催の分野別アクティブ・ラーニング対話集会の開催結果が報告された。

- ① 昨年度は9つの分野連携グループで対話集会を開催し、ICTの活用を含めた効果的な授業マネジメント、学修の仕組み、評価方法等について、501名の参加者と意見交換を行った。
- ② 意見交換では、主に「知識の定着と確認に向けたアクティブ・ラーニングの方法」、「地域参加・体験型のアクティブ・ラーニングを実現するPBL授業の工夫」、「ルーブリックによる評価方法」、「教養教育と専門教育との連携の必要性」、「教員相互による教育方針の理解と授業との関連付け」、「授業をファシリテートする仕組み・体制」などが議論されたが、「知識の活用・創造に向けたアクティブ・ラーニングの工夫」、「教員の授業科目編成から学位プログラム中心の科目編成への転換」、「教養教育と専門教育の統合」、「教員の意識改革」など本質的課題について掘り下げた意見交換には至らなかった。
- ③ 国際関係学と政治学グループでは、国際関係学グループが9月に単独対話集会を開催し、反転学修の工夫、事前・事後学修を促す工夫、大人数の授業でもアクティブ・ラーニングを行う工夫などが確認でき、定量化、定量化が難しいアクティブ・ラーニングの評価では、事前評価、実施中の観察評価、事後の達成度の評価などを総合的に組みわせる視点が必要であることが確認された。
- ④ 3月に開催した政治学・国際関係学分野連携の対話集会では、初年次のアクティブ・ラーニングは効果的であり、多様な価値観を自覚させ、高校までの知識注入型教育から、大学での学びに転換させる効果があることが確認され、教学マネジメントでは、全学的なアクティブ・ラーニングを進めていくには、ガバナンスの強いリーダーシップと、全学部の教員・職員、FD/SDを通じた連携協力が不可欠であることなどが確認され、ファシリテーターが非常に重要であり、大学としてSAやTAの養成や、学内での雇用制度の整備が不可欠であることが意見交換された。
- ⑤ 昨年度独自のテーマを研究した法律学グループについて、以下のように報告された。

法律学では、授業にICTを活用して、学生に新しい知見を提供できるかを振り返り検討し、従来の判例・知識偏重の授業から、多様な知見を組み合わせ、市民の視点での法学の重要性、法的思考との認識を説明できるような授業にしていく必要性を研究した。

テーマについて、法律的視点と、法律以外の工学エンジニアリングから見た見方、サイエンスから見た見方、人間の心理から見た視点など多面的に物事を見ていく、市民性を涵養する教育にすべきでないかということになり、法学と教養を統合した授業を考えていく必要があるのではないかということから、ICTを用いたネット上でのフォーラム型授業モデルを研究。この「フォーラム型授業モデル」を新しい教育モデルとして、提案することを考えている。

(2) 平成28年度の活動計画

資料により、「平成28年度アクティブ・ラーニング対話集会の運営方針」が説明され、その

後、本年度の対話集会の運営方針、進め方について意見交換された。

「ICT の利活用を含むアクティブ・ラーニングの教育・学修方法と教学マネジメントの改善対策を研究するため、分野連携による対話集会を実施し、体験事例から成功・失敗の原因、対策を整理するとともに、分野の壁を越えて知識を組み合わせる創造型教育の必要性、授業科目の統合化などの課題について理解の促進を図る。

① 本年度は昨年度の対話集会得られた議論・確認事項、個々の大学での経験を踏まえ、成功・失敗の要因と改善対策を整理するとともに、分野の壁を越えて知識を組み合わせる創造型教育の必要性、学位プログラムを実現していく上で避けて通れない授業科目の調整・統合、教員の意識改革などの本質的な課題について理解の促進を図ることを目的に以下の7グループに再編成し研究を継続展開する。

1. 社会福祉学・社会学・教育学・統計学の連携グループ
2. 経営学・経済学・会計学・心理学・数学の連携グループ
3. 機械学、経営工学、建築学、土木工学、電気通信工学、物理学、化学、生物学の連携グループ
4. 栄養学、薬学、医学、歯学、看護学、体育学の連携グループ
5. 英語教育、コミュニケーション関係学の連携グループ
6. 被服学、美術デザイングループの連携グループ
7. 法律学、政治学・国際関係学の連携グループ

② 政治学・国際関係学グループには法律学が加わり分野連携グループで対話集会を開催する。

③ 法律学分野は、現在取りまとめている「ICTを活用した教養・学際レベルの分野横断型フォーラム型教育モデルを取りまとめ、その後対話集会に参加する。

(3) 確認事項

- ① 昨年度の対話集会で、アクティブラーニング必要性の理解・認識は共有できたと思うので、本年度は学生本位の高度な授業を探求する。
- ② 知識習得型の授業から、知識の活用、知識を組み合わせる新しい価値を見出していく授業へ切り替えていくことを目指したい。
- ③ 単なるアクティブラーニングではなく、「アクティブラーニングに ICT を活用して授業効果を高める」ことを探求する。
- ④ 10月までに2回の委員会を開催して話題提供、意見交換のテーマ、開催要項を決定し、12月には対話集会を開催する。
- ⑤ アクティブ・ラーニングに関する意見交換のテーマ（あくまで一例）
 - ・知識の定着を目指したアクティブ・ラーニング（反転授業の進め方と課題）
 - ・知識の活用を目指したアクティブ・ラーニング（参加体験型授業）（問題解決型 PBL 型授業方略）
 - ・知識の創造を目指したアクティブ・ラーニング（異分野交流・知識組み合わせ発想型授業）
 - ・ルーブリック評価・ピア評価の方法と課題
- ⑥ 教学マネジメントに関する意見交換のテーマ（あくまで一例）
 - ・教員中心の授業科目編成から学位プログラム中心の科目編成に向けた課題整理
 - ・教養教育と専門教育との連携に向けた課題整理
 - ・事前・事後学修過密化による学生負担の軽減策(科目調整を含む)
 - ・アクティブ・ラーニング、反転授業、ICT活用の全学的FD戦略
 - ・ネット上でのファシリテータ活用の方法・体制と養成

2. 本年度の進め方、話題提供・意見交換テーマなどについて主な意見

- ・ 昨年は初年次教育の重要性をテーマにしたが、今年は取り上げないのか。

- ・ 昨年度で初年次教育の重要性、工夫は理解が認識されたと考えている。
- ・ 次のステップとしての授業改善・教育プログラム作りを考えていっていただきたい。時間と先生方の労力をかけているので昨年よりステップアップしたい。
- ・ スイッチバックは構わないが大きく後戻りしたくない。去年のレベルは整理してあるので、その整理の上に話題を展開できたらいいと思う。
- ・ 初年次教育のアクティブ・ラーニングの重要性は去年整理されているというだけの話で、まさに分野横断型の授業というの是一気通貫でやっていかないといけない。初年次でも2年生でも3年生でも4年生でもやっていかないといけない。教育の視点をただ単に知識の習得型では駄目なのだという気づきに結びつけることが重要。
- ・ 学生に本当に最高の授業を大学として、学部として提供しているかを聞きたい。教員個々のテリトリーの中で考えてはいてもどうしても担当教員中心型の授業にならざるを得ないのではないのか。そういう授業をやっていたのでは、大学としての教育の質保証はできない。
- ・ 28年度の計画では政治学・国際関係学に法律学も入り、今のスキームが完成したらアクティブ・ラーニングの提言ができるのではないのか。
- ・ こういうフォーラム型のディスカッション、議論の前提は法学を勉強しながら、例えば経営学の基本も勉強してあることが基本だと思う。意義はあると思うが、学部教育でモデルとして実践するのは困難ではないのか。
- ・ 狙っているのは法律と経営等の両方マスターすることではない。いわゆる複眼的な視点を学生にいかにか持たせられるか、学びの多面性、多様性というものをいかにか持たせ、自分たちの学んでいる法学だけでは駄目なのだ、経営だけ勉強していても駄目なのだ、そういう学問をする上での視点を気付かせるというのが狙い。あくまでも知識人の言ったことを覚えるとか学びとるのではなくて、いわゆる角度を、学生に考えるという角度を与える、そこが教育の狙いである。
- ・ 今やらないといけないのは、学びをしたい人にできるだけ多くの学びをしてもらいたい。そのためには、いろいろな視点のコンテンツを大学の教育の中に取り込んで授業を作っていくといいのではないのか。
- ・ 大学として「担当教員と他の分野の教員が入ったチームティーチングで作られる授業スタイル」を考えて行くことは、「本当に学位プログラムに繋がる授業なのかどうか」の振り返り上も必要。
- ・ 学びがどんどんeラーニング化して、ある程度の基礎知識を蓄えた上で、いろいろと議論が出来るのではないのかと思う。そういう意味ではアクティブ・ラーニングは、基本的には主体性であると思う。それをエンゲージメントするのは教員の使命であり、それを教員がやってこなかったのが問題である。
- ・ 学生の心に火をつけるような教育を教員のほうからむしろ仕掛けていなかった。
- ・ マルチディシプリンで言えば、研究は数学と経営学、社会心理学、社会学、経済学に、政治学が全部重なった論文を書かざるを得ないので、必然的にそれだけの分野をやらざるを得ない。
- ・ 要するにアジェンダだと思う。アジェンダはプログラムとしては、グローバルイシューズと地球規模化、これを理解するというので、そうするとSDGs、MDGsがあってSDGsがあって、そういうのが大きなアジェンダではないのか。
- ・ ディシプリンにこだわらなくても良いと思う。むしろ教員側がディシプリンにこだわっている。
- ・ 法律は、学部卒業して法曹関係に進む人はほんの数パーセントで、あとはほとんど一般の社会で、会社員とか公務員として働いているのに法曹界を前提の教育をしている。社会で活躍できる市民性を涵養する教育に変えるまじょうと検討している。
- ・ 大学というのはもっといわゆる市民の探求をする、そういう学びをもっともっと展開していかなければいけない。それを4年間でやらせるようになぜしないのか、そろそろそういう難しいジャンルに教育のほうを進めてはどうかとっている。
- ・ 教え子の99%は研究者にならない。その99%が社会で活躍できるようにするには何が必要か。

世の中に役立つ人、活躍できる人というところに、その議論に踏み込むかというところは非常に決定的なところ。

- 政策というか、そのイシューというか、全体でいってそこに政治学や国際関係というのがコミットしやすい本領に近いところをテーマにすると良いのではないかと。
- 国際安全保障、エネルギー安全保障とかも考えられる。
- アジェンダとしては、SDG s があると思う。
- Peace and democracy や格差問題など界の流れの次の国連総会にどういう報告を出せるかというのもテーマとして考えられる。
- やりやすいとは思いますが、グローバルのレポートものすごくある、あともう一つは、ジャパンローカルなドメスティックな話題で確かにMDG s からSDG s でなる中で、先進国もというのがすごく意識して作られてはいるので、地方創成とSDG s、持続可能な都市開発なども考えられる。
- 学位プログラムの中に入れられるかとなるとちょっと想像できないが学位プログラムにも絡んでくる。学こうということもそろそろ考えなければいけないところに来たなということだと思う。
- そういう意味では、この7つのグループの他の6グループの検討内容も欲しい。
- 少しずつお見合いをして連携を深めて行きたい。去年初めて分野連携やってみたが、専門と教養が連携されていない。先生方の意識がまた縦割り思考が強すぎる。融合化を少しずつやり最後は3つくらいのグループで分野連携を構成したいとは思っている。
- 少しずつ、先生方にいろいろと分野を越えて、ちょっと新しい学びを考えてもらえたらいいなというところを28年度の計画で狙っている。
- 法律からは提言型の分野横断型のフォーラム授業を提案しますということで、プログラムの中に話題提供として入れるということを知りたい。
- アクティブ・ラーニングに関する検討の項目の例を事務局で整理してみたが、確かに知識の定着は必要だが、知識の定着が話題となるのであれば、反転授業を具体的に進め方、このへんのところに標準をあわせよう。それから活用ということになれば、いろいろ連携型のPBLをおおいにやってもらおう。それから想像型という、これマルチ型とやっは発想型の授業でいいのではないかと。あともう一つは、評価をどうするのか。相変わらず、これ去年も先生方からも提案がありましたように、評価は非常に難しいので、もうちょっとこう、評価について、いろいろと切り込んで意見交換したい。
- 教学マネジメントでは、授業科目の編成が教員中心から学位プログラムだということと教養と専門の融合を課題整理していく。もう一つは、学生が本当に時間かけて勉強する時間が無くなってしまって、ただ形だけのアクティブ・ラーニングに追われてしまうという意見が多かったことから、目調整もそろそろ考える必要がある。
- 今日フリートーキングして、一つ方向性が出てきたのかと思うので、授業を題材にして、発想型の話題提供を委員の先生からお願いしたい。
- 国際関係的というやはりブレグジットですよね、同じことがジャパンデグレットに近い。そのあたりはやらないといけない。
- 南シナ海の国際法とを無視するといっている問題、これも面白いテーマなのでいわゆる法と秩序とをどうやって秩序を保てるかと、法があったって秩序は保てられないという本質的な問題も出てくるので、そういう問題をテーマにするのも面白い。
- ういいうのは非常に面白いテーマなので、おおいにアジェンダとして、提案型で何かそれをモデルにして授業を描いてもらえないかと。
- アジェンダというかテーマがあって、そのテーマについて多面的に考える、授業でやっているイメージを、政治学、国際関係、共通するようなテーマでくくって考えてみてはどうか。
- 提案型で、もちろん体験されている授業の中にひっくるめてもかまわないが、それにプラスアルファで先生方から話題提供してもらおうというのが良いのではないかと。

3. 話題提供について

以上を踏まえ、授業を題材にした発想型の話題提供を林先生、川島先生に検討いただくことにした。
林先生、川島先生には、それぞれの話題提供を検討いただき次回委員会までにメモで用意していただくことにした。

3つ目の話題提供は、法律学委員会から「分野横断型のフォーラム型授業の提案」を行うことにした。

4. 次回委員会

次回は9月1日(木)14時から合同委員会を行い、対話集会の開催要項を検討することにした。